

1. 胚珠 2. 子房 3. やく 4. 花粉

1. 胚珠 2. 花粉のう 3. 子房 4. やく

1. 柱頭がないため、風で運ばれた花粉が直接、りん片にある胚珠に付着する
2. 花粉が飛散して、雌花のりん片にある子房の中へ入り込むことで受粉が完了する
3. 雄花のりん片にある「やく」から出た花粉が、雌花の中にある胚珠と受精する
4. 昆虫が蜜を求めてやってきた際に、花粉が雌花の柱頭に付着する

1. 水中の不純物をろ過して、体内にゴミが入るのを防ぐため	2. えらの強度を高めて、水の流れる破損を防ぐため	3. 水を蓄える隙間を増やして、陸上でも呼吸が続けられるようにするため	4. 水との接触面積を大きくして、酸素を効率よく取り入れるため
-------------------------------	---------------------------	-------------------------------------	---------------------------------

1. 単子葉類 2. 双子葉類 3. 裸子植物 4. コケ植物

1. シダ植物 2. 裸子植物 3. 双子葉類 4. 単子葉類

1. 体全体が柔らかい皮膚でおおわれ、筋肉だけで移動する。
2. 内臓が外套膜（がいとうまく）でおおわれており、体やあしに節がない。
3. 体の内部に背骨があり、それによって筋肉を支えている。
4. 体やあしに節（ふし）があり、体の表面が外骨格でおおわれている。

1. 乾燥したうろこで覆われており、
陸上での水分の蒸発を防いでいる。

2. 粘液で湿った皮膚になっており、
肺呼吸を補うために皮膚呼吸も行っ
ている。

3. 硬い毛で覆われており、外敵の刺
激から身を守っている。

4. 羽毛で覆われており、水中でも体
温が下がらないようにしている。

1. 兩生類 2. 哺乳類 3. 鳥類 4. 爬虫類

1. 維管束が輪の形に並んでおり、道管が内側、師管が外側に位置している	2. 維管束が輪の形に並んでおり、師管が内側、道管が外側に位置している	3. 維管束が茎の中心に一つにまとまっており、太い管を形成している	4. 維管束が茎の全体に散らばっており、特に周辺部に多く集まっている
-------------------------------------	-------------------------------------	-----------------------------------	------------------------------------

1. 根の先端に近い部分の印の間隔が、他の部分よりも大きく広がる。 2. すべての印の間隔が、元の比率を保ったまま等しく広がる。 3. 根の中央部分の印の間隔が、他の部分よりも大きく広がる。 4. 根の基部に近い部分の印の間隔が、他の部分よりも大きく広がる。

1. 左上の方向 2. 右下の方向 3. 真左の方向 4. 真上の方向

1. どちらの仲間も親が子に母乳を与えて育てる習性があるから。 2. どちらの仲間も皮膚呼吸と気孔による呼吸を組み合わせで行っているから。 3. どちらの仲間も体に背骨をもつという骨格上の共通点があるから。 4. どちらの仲間も成長の過程でえら呼吸から肺呼吸へと変化するから。

1. 側根 2. ひげ根 3. 主根 4. 維管束